



遊 道 楽 歩
(雑 感)



行政のITリテラシー欠如を笑えるのでしょうか？

長野 修二



目次

マイナンバーカードシステムでは、多くの課題が露呈しているようですが、その多くは行政だけの問題ではないでしょう。

その前に「リテラシー」とは、「ある特定分野の事象や情報を正しく理解・分析・整理し、それを自分の言葉で表現したり、判断する能力」だといわれています。私もネットで検索して知ったわけですが、日本人のITリテラシーの欠如は、なにも行政だけの問題ではありません。

日本人固有の問題だと、私は感じています。

やたら例外扱いが多く、うちの企業はこれまでこのようにやってきたと経営効率を考えるとなくITを導入する企業がいかに多いことでしょう。

富士通や多くのソフトウェア開発企業などから提案される導入案件は、経営陣からのわけのわからない言いがかりでとん挫することが多いものです。

それでもソフト開発企業は商売ですから導入の目的である効率化とは程遠い開発プランに同意しながら開発費を稼ぐことになります。

ベンダー企業のなかには無理を強いられ赤字プロジェクトになることも多いと聞きます。

それほど日本人の頭はITの標準化に向いていないと、私は感じています。

オーナー経営者で一人だけリテラシーがある経営者と出会いましたが、IT導入による経営の効率化をよく理解しており、これまで自社でおこなっていた独自のプロセスを破棄し、ITによる標準化に積極的な人でした。

先ず自分で勉強しITの概念をよく理解している経営者でしたが、社員やITベンダーの人たちの話にもよく耳を傾けていました。

それになんといっても将来の事業イメージを鮮明にもっていますから、トップダウンでIT化を推進できました。

このような人は後にも先にこの経営者だけでした。

ITの効率化は、連続性にあります。

要は、人ができる限り介入しないことが最も重要なのです。

すべてのシステムをいかに連携できるかです。

このような発想ができる人が、とにかくこの国では少ないと感じます。

だからIT導入＝経営の効率化どころから生産性をさらに悪くしてしまうことになりかねません。

私からみると恐ろしいくらいです。

マイナンバーカードは、よくできた仕組みですが、連続性や一貫性の点ではまだ問題があり改善の余地があります。

もっとも、ここまできたのも大変なことだったと、想像されます。

企業の中ですらIT化の全体像をもっている人は、極一部の人たちですし、多くの関係者を入れれば入れるほど最初の目的から遠ざかっていきます。

それでもトップダウンで将来像を示せる経営者がいる場合に限り、多くの困難を克服して当初の理想に近づくことができます。

このような人材（経営者や国のトップ）がいなければ到底前に進みません。

それはこの国の国民に将来のビジョンを指し示す人が少ないこともわかりません。

I T分野などでグローバルな競争に後れをとっていることには、国民性という人間の本质にかかわる課題があると、私は考えています。

利便性が高い多くのソフトを利用すればするほど、このことを実感する今日この頃でしょうか。

それでも国を揺るがす感染症問題は、既存のシステム問題をいっぺんに暴露してしまいましたが、この国の国民性は、このような事態に陥ったときはじめて改革する姿勢がでてくるのも、これまでみてきたとおりです。

今後、この国の社会システムが変貌する素地を感染症が作ってくれたと思えば、危機は、危険ばかりでなく、新たな機会をくれたということではないでしょうか。

行政のITリテラシー欠如、笑えるのでしょうか？

著 長野修二

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
